

八幡平-岩手山縦走報告

2 日 目

2010 年 8 月 30 日(水) - 9 月 3 日(金)

M4 只左一也

M4 張 劉喆

9 月 30 日：東京→(東北道)→茶臼岳登山口→茶臼岳→八幡平→裏岩手連峰→大深山荘

10 月 1 日：大深山荘→三ツ石山→鬼ヶ城→不動平避難小屋

10 月 2 日：避難小屋→岩手山→焼走り登山口→(東北道)→松島→(東北道)→東京

2 日 目 (10月1日(金))

起床	03:30
大深山荘	06:00 発
大深岳	06:45 着/ 発
小畚岳	07:45 着 08:25 発
三ツ石山	09:20 着 10:00 発
三ツ石山荘	10:25 着 10:35 発
網張温泉分岐	12:15 着 12:55 発
黒倉山	14:30 着 14:35 発
不動平避難小屋	17:30 着 (避難小屋泊)

(歩行時間：約 9 時間)

早朝 3 時半に起床。窓を開けると、周囲はガスで覆われている。張の用意してくれた豪華なラーメンを食べ、支度していると 6 時になってしまった。外はいつの間にかガスが消え、青空が広がっている。この日もいい景色を楽しめることに期待して、わくわくしながら出発。

なだらかな樹林帯の道を登って行くと、すぐに平

らな笹原となり、大深岳(1541m)のピークに到着。岩手山の眺めが言葉にならないほど素晴らしい。いかにも東北の山らしい周囲の広大な原生林の穏やかな雰囲気の色がまた何とも言えない。これから進む小畚岳の方は、紅葉が進んでいる。

秋田駒ヶ岳方面との分岐を左手に進み、急坂を下り、急坂を登り返す。なかなかきつい登りだった。小畚岳(1467m)に着くと、雄大な展望待っていた。まだ全然歩いていないが、眺めの素晴らしさに、つい長居してしまった。



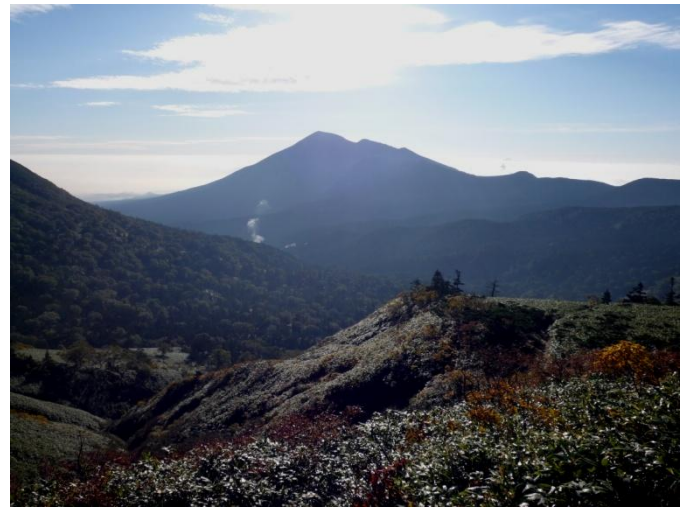
大深山荘の小屋の中



外観



山頂付近から西を眺める



岩手山

大深岳へのなだらかな登り



秋田駒ヶ岳への分岐付近から眺める小畚岳

大深岳山頂付近は平坦な高原風



ここから三ッ石山までの稜線はハイマツと笹の穏やかな稜線である。正面の笹原が、陽の光に輝いていて、まるで絨毯のようである。逆光に輝く笹原を見ると、何故だか無性に懐かしい気持ちになるのはなぜだろうか。このあたりは、紅葉がピークのようなだったが、少し色がくすんでいるのは、この夏、暑かったためだろう。どうやら、八幡平岩手山周辺では、毎年この三ッ石山周辺が一番早く紅葉の見ごろを迎えるようである。

時々立ち止まっては景色に見とれ、写真を撮り、のんびり進んでいると、高齢者の5、6人ほどのパーティーが向こうからやってきた。この先の三ッ石山荘に泊まったそうで、そこも貸し切りだったようである。この周辺にはたくさん「山荘」と名の付く小屋があるが、すべて無人の避難小屋である。

三つ沼の脇を通り過ぎ、草原のような道を進み、お巨岩が点在する三ッ石山(1466m)山頂に着くと、すでに何人も人がいた。このあたりの紅葉は、少しくすんでいるものの見事だった。この紅葉が目当てなのだろう、休んでいると何人も人が登ってくる。ここでもどっかりと腰を下ろしてしまい、2人でおしゃべりしながら眺めを楽しんでいると、私たちから少し離れたところで休んでいた60代と思われる2人組が私たちに近寄ってきて、飲み物とおにぎりをくれた。地元の人だそうである。



小畚岳



大深岳(中央)を振り返る



岩手山が見事



三ツ石山へと続く縦走路



三ツ石山



秋田駒ヶ岳(中央やや右)方面の眺め



縦走路を進む



三ツ沼



美しい笹原の中を進む



歩いて来た道を振り返る。中央が大深岳。



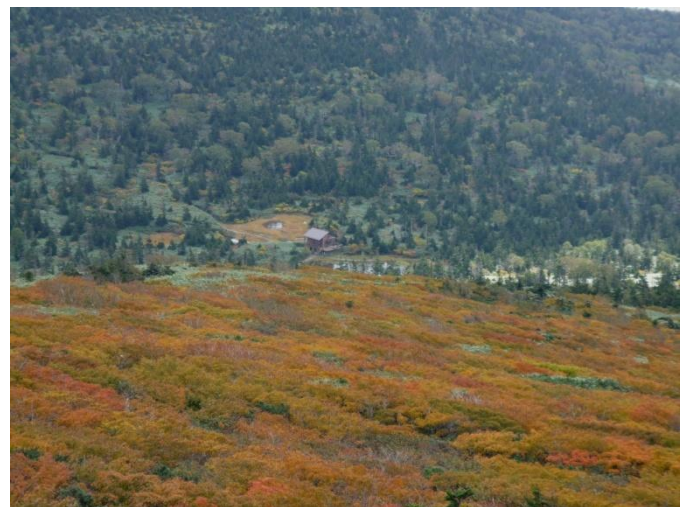
40 分ほど休み、おにぎりをくれた 2 人にお礼を言い、出発。ここから三ッ石山荘までは下りとなるが、登って来る人たちと頻繁にすれ違う。

三ッ石山荘は湿原の中に建てられた立派な避難小屋で、ここも小屋の中はきれいである。きれいなトイレが小屋の中にある。ただ、湿地帯なので、夏は虫が多くて大変な気がするが…。

なだらかな斜面を登り、犬倉山を目指して進んでいると、さらに何組ものパーティーとすれ違う。網張温泉分岐のところで、稜線のすぐ下までリフトで登って来られるので、人気のコースのようである。丁度昼になり、腹も減ったので分岐で腰を下ろして昼食をとった。



三ッ石山頂付近は紅葉がピークだった



三ッ石山荘を見下ろしながら下る



三ツ石山荘



三ツ石山荘のデッキからの眺め



リンドウが多い



網張温泉への分岐。右手に 10 分ほど進むと、リフトに乗ることができる。

分岐からは少し遠回りして犬倉山の山頂に寄り道して、樹林帯の中を進み、笹原の斜面の美しい姥倉山の脇を登ると、植物が少なくなって少し荒れた感じの火山らしい景色となる。黒倉山の山頂から噴煙が上がっているが、近づいてみると所々地面の割れ目から水蒸気が上がっていた。水蒸気で、すぐ向こうの大きな岩手山が霞んで見える。

黒倉山から少し下り、樹林帯の中を登り返すと、次第に樹木の背丈が低くなり、尾根も細くなり、道が少しずつ険しくなる。ハイマツと低灌木の痩せ尾根を進むと、鬼ヶ城の岩場となる。日もだいぶ傾き、夕暮れ時となるが、2人とも少しばててしまい、ペースがかなり遅くなる。次第に岩手山の山頂が近付き、目の前になったところで日の入りとなってしまった。

稜線から少し下ると、この日の目的地、不動平避難小屋に到着。先客は、単独行の中年男性2人だけだった。15分ほど離れたもう一つの大きな避難小屋（八合目避難小屋）の前が水場なので、汲みに行くと、結構人が泊まっていた。こちらは有人の避難小屋で、有料だが寝具を貸してくれるのでこちらに泊まる人が多いようだ。ここの水は、東北の水場の中でも指折りの名水のように、大変うまい水だった。この晩は私の用意したペミカンでカレーを作ったが、我ながら納得のいく出来栄で、2人とも腹が減っていたこともあってがつつ食べたのだが、張の食べっぷりには感心してしまった。



山頂からの眺め。この日歩いてきた稜線を辿ることができる。左が三ツ石山、中央が小畚岳、右が大深岳。



犬倉山の山頂に寄り道



岩手山へと続く稜線。右のゴツゴツが鬼ヶ城。



岩手山の屏風尾根



黒倉山山頂付近は、地面の割れ目から水蒸気が上がる。



黒倉山山頂から眺める岩手山と鬼ヶ城

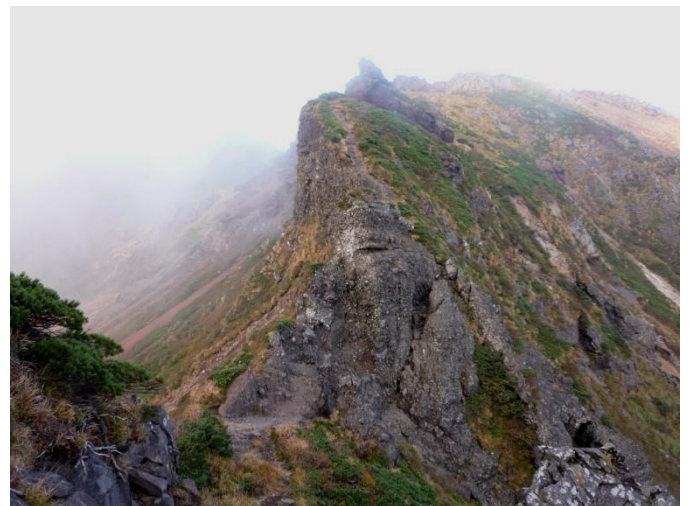


南の雫石地区



鬼ヶ城の痩せ尾根

稜線の北側。池は御苗代湖。

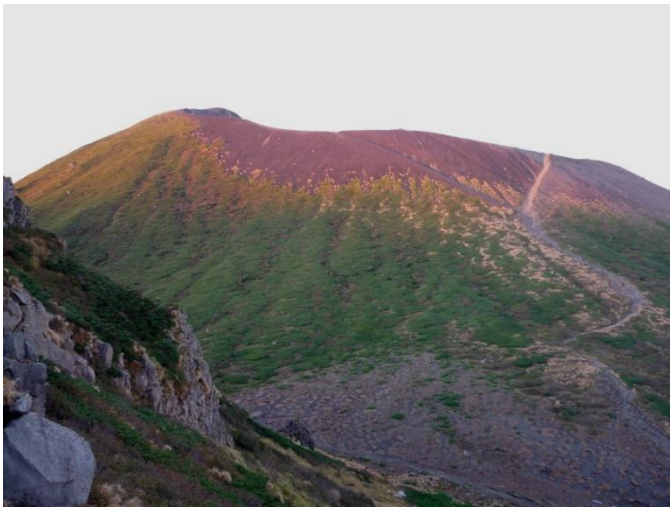


後を振り返る

このあたりが少し陰しいだけで、危ないところはない。



最近まで火山活動が盛んだったような活火山なので、避難小屋はこの通り、頑丈な造り。



残照の岩手山山頂



不動平避難小屋